

低硫黄C重油

A重油

- ・国内では供給例がなく※、各社で性状を検討中
- ・製造方法は多数あり、会社毎に性状(動粘度、流動点、熱量、etc.)が異なる可能性
- ・JIS規格の性状範囲は広く、JIS規格に適合しているからといって船舶で適切に燃焼・使用できるとは必ずしも言い切れない
- ・ISOでは動粘度によって規格が細分化されているが、残渣油の規格では動粘度の下限値はないため、ISO規格のみでは動粘度の絞込みは困難

- ・既に供給されている(ただし、硫黄分濃度は0.35%~0.7%程度であり、0.5%以下とするために調整が必要なものも一部存在)

※現在も199GT以下の船舶のほぼ全てがA重油を使用。
499GTの船舶でも約半数がA重油を使用(499GTタンカーでは、ほぼ全てがA重油を使用)

※欧州等の特別海域では0.1%の低硫黄C重油(ISO:RMD80準拠、RMG180準拠)が供給中。
また、海外では一般海域用の0.5%の低硫黄C重油も実船でトライアル済。

課題

検討状況

課題

検討状況

- ・エンジンで正常に燃焼できるか(エンジンに損傷を与えないか、着火遅れが起きないか)

- ・複数サンプル燃料の燃焼試験を実施

- ・エンジンでの正常な燃焼を確保するため※燃料タンクからエンジンまでの燃料移送工程(加熱装置、配管、ポンプ等)が対応できるか

- ・**海運業界、石油業界、造船・船用業界、関係省庁と連携して、問題点の洗い出しと対応策の検討を実施(6者協議会)**

- ・本事項を反映したガイダンスを作成予定

※エンジン入口での動粘度を一定範囲にするための温度管理等

- ・複数の性状の低硫黄油を混合しても問題なく使用できるか

- ・混合安定性確認方法、低硫黄C重油の流通経路(混合せずに供給できる可能性)等を調査中
- ・本事項を反映したガイダンスを作成予定

- (新造船)
- ・A重油専焼船の建造をどのように促進するか

- ・鉄運機構にて労働環境改善船(A重油専焼船)の支援を開始

- ・A重油専焼旅客船の配乗要件緩和の可能性を検討中

- (既存船)
- ・C重油燃焼船からA重油専焼船への移行をどのように促進するか

- ・日本船用工業会において、A重油転換時に部品交換等が必要な機器リストを公表(国交省HPに掲載)

- ・A重油専焼船への転換の際に必要な機器の導入支援を検討中
- ・A重油専焼旅客船の配乗要件緩和の可能性を検討中